

2016年（平成28年） 1月 708号

## 祈る時には

マリノ E. デハクト Jr.

どんな宗教でも祈りは大切にされていると思います。無神論者でも、祈らないというわけではありません。人間にとって祈りは自然にわき出てくるものです。祈り方は異なっているかもしれませんが、目的はだいたい同じです。例えば、健康のため、試験に合格するためなど、日常生活に必要なものを与えてもらうために祈ります。つまり私たちは何かに対して無力に感じる時、祈りたい気持ちが自然に出てくるのです。それは不思議なことだと思います。

聖書の中で一人の弟子がイエス様に「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。(ルカ 11 章 1 節)」とイエス様に願いました。弟子たちはイエス様が祈っている姿を何回も見ていたのです。聖書にはイエス様がたびたび長い時間を使って祈っておられたと書かれています。弟子たちはそのイエス様が祈っていらっしやらっしゃる姿を見た時、イエス様と御父の深い絆が見えたことでしょう。だから彼らはイエス様に祈りを教えてくださいと頼みました。それに対してイエス様は主の祈りを彼らに教えられました。主の祈りでは神様は全ての父であるから、神様は愛してくださる者なのです。神と人間の関係はもっと親しくなっています。これはキリスト教の一つの特徴なのです。また主の祈りは最高の祈りだと言われています。私たちの必要なもの、やるべきことは全てこの祈りによって纏められているからです。洗礼によって私たちは神様の養子になっているので、祈る時イエス様と同じように祈ることができます。それは神様が私たちを愛してくださる父だと呼ぶことができるということです。私たちは祈る時、相手が遠い所にいらっしやると思っはいけません。神様が私たちのお父さんだったら、共におられることは確かなことだからです。しかし祈る時、忘れてはいけないことが一つあります。それは私たちの思っていることではなく、神様のみ旨に従うということです。というのは祈る時、神様に全て委ねることは大切だからです。私たちのために何が一番良いのか神様はご存知だからです。

キリスト者として日々の生活の中で祈る時間が必要です。どんな活動でも祈りから始め、祈りで終わるということはキリスト者らしい生き方なのです。そして祈ることによって私たちは造られた者として造り主に対して賛美することができます。今年も私たちは祈りの力で支えられて過ごすことができますように神のみ母聖マリアの取り次ぎを願ひましよう。